

●ポスターセッション (P-環境教育・国際協力-02~06)

本セッションでは、環境教育・国際協力に関連する幅広い内容を対象としたポスター発表があった。

将来にわたって水環境等を維持していくためにはリスクの管理が重要になると考えられるが、リスクを学習する機会は一部の大学生や社会人に限られているのが現状である。「体験学習型の環境リスク学習プログラムの開発」では、一般市民あるいは中学・高校生にリスクの概念を容易に理解してもらうための教育プログラムの作成について発表があった。ここでは有用な手法として体験学習型の教育プログラムを適用し、順序立てたアクティビティのパッケージが考案された。今後、さらに改善を重ねて全体のシステム化を図ることが期待される。

水質指標は、多くの国で水環境を評価する重要要素として共通するものが用いられてきたが、日本で用いられているものが現地では適用できない場合もある。「北タイの河川に適した水環境指標の検討と評価」では、水環境の健全性指標の簡易版を参考に英語版を作成し、その試行調査結果を踏まえてタイの川に適した評価指標を検討するとともに手引きを作成した。評価軸は5項目から構成され、評価段階は住民に理解されやすいように工夫がなされている。簡易分析法による水質調査との比較も実施されており、データの積み重ねに裏づけられた評価方法の確立が現場で大いに役立つであろうと考えられる。

「糺の森自然体験活動に関する考察」では、京都市下鴨神社の糺の森で子供たちを対象に行われた自然体験活動の試みについて発表があった。下鴨地域は古くからの居住者が少なく、地域住民の連帯が希薄だが、平成19年度に下鴨神社の協力の下、2つの自然体験活動を行い、好評であったことから平成20年度はテントウムシ観察会、水質調査など5つの活動を行った。途中で下鴨神社の協力が得られなくなったという事情もあったが、新たな協力者も得られ、来年度も継続して活動が実施されるとのことである。

大分工業高等専門学校は、恵まれた水環境を活用した実践的技術者教育をテーマとした文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム」(教育 GP) に採択されている。「地域水環境を活用した実践的環境技術者教育」では、本教育 GP の取り組みの概要とこれまでの結果について紹介があった。本取り組みは、地域行政団体や NPO 法人との連携の下、実社会との相互交流を踏まえた実践的環境教育を推進するものである。初年度の平成20年度は1学科を中心とした取り組みであったが、今後は学校全体の取り組みに拡大させるとのことであり、さらなる環境教育の広がりが期待される。

(山口大学大学院・理工学研究科 樋口 隆哉)

※P-I01 については年会期間中にポスターの貼り付けがなかったために記述していません。

※P-I05 は欠番です。